



世界と日本

令和7年9月16日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

登用において独自進化した日本という隔離された文化は、その独自性における自己と進歩を有するものであり、その理解と社会は世界においてユニークさを与える。

近代化の過程において西洋から学習し独自社会と国家を実現したことは世界において例を見ないものである。

これらは狂気という過去でなく、自己を見つめ直し、世界との新たな対話を行うことは、その自己の独自性に対して正しい説明と世界との共有のルールにおける参加などにおいて、新たな未来の実現を可能とできるものである。

これらは劣等生や共生を離れることは、自己社会の独立性と新たな自立におけるサイクルは、国民が自国においてその生活を完結する新たな時代とともに、世界との新たな関係の模索を実現できるものである。

また自己のアイデンティティに立役した世界との関係と対話は、その独自性に対する理解と説明において世界が新たな現実を与えられることなのである。

これは日本における常識が世界においては全く新しい理解として提示できるのである。これらに対する理解が希薄なのは、それが日常であり、理解以前に共有されるものであるからなのである。

これらは比較文化学における考察は、その詳細な文化に対する理解において世界においてその理解を提示できるものであり、それらは社会と生活という現実において存在するものなのである。

これらは共有の基準における判断を求めるとき、日本が劣るという現実は必ずしも正しくない。また国政における努力が優れた社会を与えることも存在するのである。

これら独自性が今日世界において今日驚嘆とともに受け入れられることは一つの真実であり、日本人が自らの発言を世界に与えることは、新たな未来を提案できるものであることは



正しいと考える。

それらは独自性への理解とその説明において世界との対等な対話を求めるとき、正しい関係の構築と未来の実現を可能とできるものである。